

令和4年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組

伊予市教育委員会
伊予市立佐礼谷小学校

1 取組の目的

- (1) 危機管理マニュアルの見直しや避難所運営マニュアルの整備を図り、非常変災に備える。
- (2) 防災学習を通じて、防災活動において自ら考え判断し、主体的に行動する児童生徒を育てる。
- (3) 中核教員の位置付けと地域との連携により、学校防災・地域防災の実践的な知識を習得する。
- (4) 地域や関係機関との連携を見直し、地域の防災・減災に向けた協力体制を強化する。

2 取組の内容

(1) 実践委員会を組織

- 専門家や地域の関係機関の方々19名に実践委員を委嘱し、6月、9月、12月に実践委員会を実施した。
- 事業の計画や実施内容の評価について協議し、学校防災と地域防災に関する底上げを図ることができた。



(2) 防災管理体制の整備・防災環境の整備の推進

- 年度始めに危機管理マニュアルを再点検したり、佐礼谷自主防災会との連携で避難所運営マニュアルを整備したりし、地域性や今日的課題に適応した体制を整えることができた。

危機管理マニュアル



避難所運営管理マニュアル

このマニュアルは防災訓練用として
避難所開設の初期活動を学習する目的
に伊予市制定のマニュアルに準拠
して作成しています。

令和4年10月

佐礼谷地区自主防災会

(3) 防災マップ作り

- 防災についての正しい知識や実践する力、自分で考えて主体的に行動する力を身に付けること

を目的として、5・6年生児童が総合的な学習の時間に防災マップ作りに取り組んだ。

実施時期	学習・活動内容
7月6日(水)	オリエンテーション(意義・目的・活動) ① マップ作成について ② フィールドワーク事前指導 など
7月6日(水)	フィールドワーク①(まちなか探検・地域探索)
7月11日(月)	フィールドワークの振り返り、これからの活動について
9月2日(金)	「マイタイムライン」作成
9月7日(水)	フィールドワーク②(自主活動)
9月12日(月) ～ 10月20日(木)	マップ作り ① パーツ作りやレイアウトの話合い ② テーマや提案事項の決定 ③ 白地図作り など
10月24日(月)	マップ完成、活動全体の振り返り



○ 10月30日(日)の防災教室のプログラムの一つとして保護者や地域の方々、行政関係者、大学生等の前で、自分たちが取り組んだフィールドワークや防災マップ作りについて発表した。

- 参加者の感想から
- ・ 自分たちの足で調査をして学んだ内容が細かく丁寧にまとめられていて感心しました。子どもたちの学びをきっかけに親にとっても勉強になりました。誰もが自発的な行動を取れるようになれば、実際に避難することが起こったとしても、皆が協力しながら乗り越えられるような地域になれると思います。素晴らしいマップ作成おつかれさまでした。(保護者)
 - ・ フィールドワークをして、ホテルを守るために川の護岸を石垣にしていることを初めて知りました。マップ作りは大変だったけれど、こつこつ頑張り、自分たちの伝えたいことや提案を入れることができて、考えて実践する力が付いたと思います。実際に土砂災害が起こったときに、すぐに命を守る行動を取れるようにしたいです。(6年生児童)



(4) 地域や関係機関と連携した防災教室の実施

○ 防災教室は、伊予市全域に避難指示が発令されたという想定のもとで行った。避難所設営や避難スペースの設置、防災食・非常食体験のプログラムでは、児童・保護者を避難者に、地域関係

者・学生等を運営側にし、役割を分けて実施した。また、防災マップの発表やワークショップ等では、全員が学習者として参加し、防災・減災に対する知識の習得や意識の高揚を図った。

7:30	避難所設営開始(受付、駐車場、エリア分け)
8:00~8:30	各家庭から小学校体育館に避難(徒歩 or 自家用車)
8:30~9:30	模擬避難スペース設置体験(自主防災会、危機管理課、消防団等)
9:45~10:15	防災マップの発表(5・6年児童)
10:30~11:30	非常持ち出し品についてのワークショップ(小学校職員)
11:40~12:50	防災食・非常食体験
13:00~14:00	講演・ワークショップ(愛大防災情報研究センター 松村教授)
14:00~14:30	片付け、下校



○ 参加者アンケートから

- ・ 防災は非日常での生活を考えることなので、なかなか普段から意識しておくことは難しい。しかし、災害が多い今日、防災を意識した生活を日常から少しでも取り組んでいき、日常と非日常の生活の境界線をなるべく太くしていく必要があると思った。
- ・ やってもらった意識で避難するのではなく、自分も何かする意識で避難するという考えは目から鱗でした。1年生なりにできること、大人なりにできることを、自分のため誰かのためにという意識を忘れずにいようと思った。
- ・ 子どもたちの防災意識の伸びがすばらしく、これに答えられるように、大人の考えを変えていく努力をしたい。

(5) 職員研修

- 教職員や実践委員会委員の知識や技能の向上、防災・減災対策の深化を目的に、先進実践地(愛南町)視察研修や五感で学ぶ防災用品講座を実施した。



(6) 児童の防災に関する知識や実践力、判断力を高める取組

- 図書の整備や救急救命講習・避難訓練・引き渡し訓練等の実施により、児童の防災に対する知識を身に付けさせるとともに、自らの命を守るための主体性を育成した。



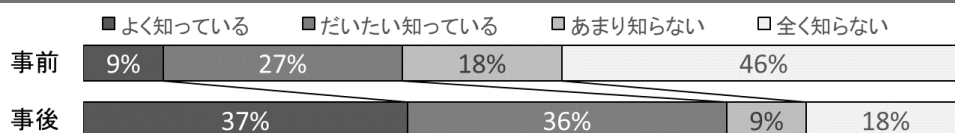
(7) 情報発信による成果の普及・意識啓発

- 防災に関する情報を学校のホームページや学校だより、中山地区公民館だより等に掲載し、理解促進と啓発を図った。また、「防災マップに取り組んで」の発表内容や防災に関する提案を冊子に製本したものを佐礼谷小校区の全家庭に配付し、地区全体の防災力向上を図った。

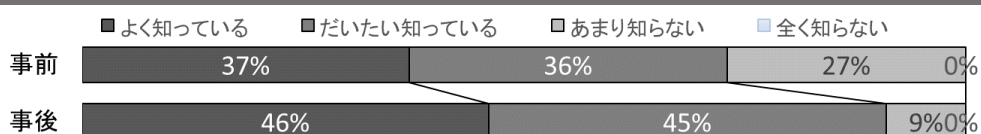
(8) 事前アンケートと事後アンケートの結果から

- 全校児童に対して、防災に関するアンケートを防災学習の事前（1学期）と防災学習の事後（2学期後半）に実施した。その結果、児童の知識や関心において、次の項目で伸びが見られた。

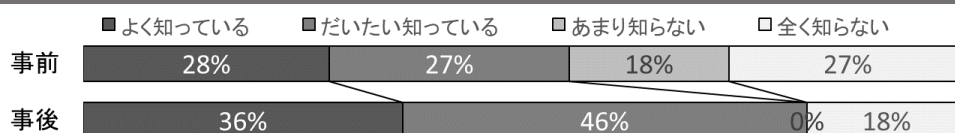
・ハザードマップの見方や、災害時に自宅の周辺がどのような状態になるかを知っているか。



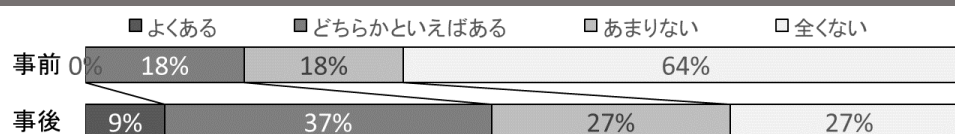
・非常持ち出し袋（防災リュック）に何を入れたらよいか知っているか。



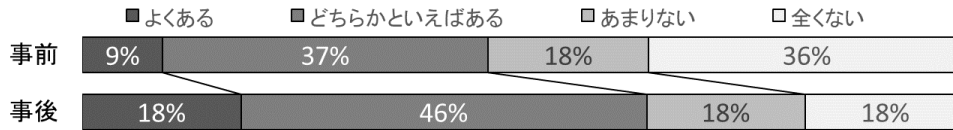
・佐礼谷地区の指定避難場所（地震や洪水の時に逃げる場所）がどこか知っているか。



・避難所での生活を考えたことがあるか。（食事、寝ること、トイレや水道を使うことなど）



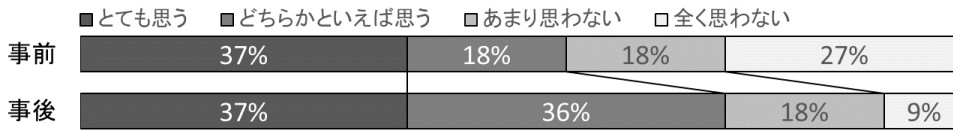
・家にいるときや登下校中の地震が起きた場合、どのように自分を守るか考えているか。



・学校で地震が起きたとき、どのように自分の命を守るか考えているか。



・防災キャンプや地域の防災訓練があるときには、進んで参加すると思うか。



3 取組の成果

- 防災マップ作りに取り組むことを通して、児童が防災・減災についての関心を高め、地域住民の一人という自覚をもつことにつながった。
- 防災マップ作りから学んだことや地域に提言したいことを冊子にまとめ、校区内全家庭に配付することで、地域の防災力強化の一翼を担うことができた。
- 専門家や専門機関との連携により、児童は学校だけでは学ぶことのできない体験をしたり、知識や情報を得たりすることができた。また、保護者や地域・教職員の防災意識も高まった。
- 学校と家庭・地域が連携した防災教室を計画・実施、地域ぐるみの防災教育の推進により、多くの地域関係者との協働体制が整備され、地域の教育力向上につながることができた。
- 非常変災時の行動について、様々な想定のもとで繰り返し学習することで、児童の防災に対する知識を増やすとともに、自らの命を守るための主体性を育成することができた。
- 教職員の防災教育に対する知識や意識が高まり、実践的指導力を向上させることができた。

4 今後の課題

- 今後も地域住民の防災意識をさらに高め、学校を核とした防災力強化を図るため、防災の学習を教育活動の様々な場面に位置付け、取組を検討しながら実践していく必要がある。
- 児童の防災に対する意識が少しずつ高まり始めている。しかし、地震災害や津波災害など、十分に学習できなかった分野もあり、本年度の取組を検証し、次年度以降の計画に反映させていく必要がある。
- 自助・共助への意識の高まりを今後も継続させていくために、日頃から地域行事や学校行事を通して地域・家庭・学校が一体となり、今後も協力しながら取組を進める必要がある。